

学長室だより

2014.5.22 NO.4

図書館でのお気に入りの勉強場所—マルクスと私の場合—

国際教養大学のユニークな教育は全国的に高い評価を受けている。我々はこのことに誇りを持つだけでなく、その評価がますます高くなるように努力しなければならない。ユニークな教育を成り立たせている施設の一つに24時間・365日利用可能な図書館がある。この図書館は半円形で美しい木目の秋田杉がふんだんに使用されており、落ち着いた雰囲気勉強に没頭できる場所だ。半円の中心から外縁に向かってせりあがってゆく幾重もの本棚の列は古代ローマの円形劇場を思わせる。この図書館の「本のコロセウム」という別名も誠に相応しい。建築家の仙田満氏の設計で、国際的な建築家フォーラムアワード2010、日本建築家協会賞、BCS賞も受賞している傑作である。学生達が三々五々に置かれた読書テーブルに静かに座って勉強している姿をそっと見ているとこちらも心楽しくなる。だが、勉強というのはいつも楽しいものとは限らない。どちらかという、「勉強はやらなければならないからやる」といった状況が一般的だろう。それを強いて勉めるのが勉強なのだ。そこで、学生達はいろいろ工夫して、自分で少しでも勉強に興味を持てるような状況を作り出すことを考える。図書館で自分のお気に入りの座席を決めてそこで勉強することなどもその一つであろう。

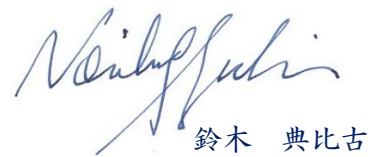
数年前、面白い体験があった。私が中国の南京大学を訪問した時の話である。キャンパスを散歩していると、学生寮から出てきた学生達が寮の前の芝生に座ったり小道をゆっくりと歩きながら手に英語の教科書とおぼしき書物を持ってしきりに英語の文章を音読している。学生寮は8名一部屋の集団生活であるとのことなので英語の音読などには屋外が格好の練習場所なのであろうと思われた。学生達がどのように勉強しているかを尋ねたところ、それぞれに工夫を凝らしており、微笑ましいものがいくつもあった。その中で、私が思わず相槌を打った話というのは「図書館で勉強する時には、1時間（あるいは一科目）毎に気分転換のために場所を変えて勉強する。移動した場所の数によって今日は何時間勉強したかわかる」というものであった。実はこのやり方には私にも思い出がある。私は1973年から78年まで、米国インディアナ大学の経営大学院博士課程に在学し経営学博士号を取得したのだが、勉強は博士課程学生用の研究室ではなく、主に図書館で行なった。私は博士課程の授業を受講すると共に学部学生に経営学を教えるTA(Teaching Associate=博士課程学生で学部授業も教える補助講師)もやっていたので日常は非常に多忙であったのだが、それでも一日に平均7時間は勉強したのであろう。なぜこのように具体的な時間数を覚えているかというと、インディアナ大学の図書館は10階建てで、毎日図書館に行くと私は3階のお気に入りの読書テーブルの座席に座って勉強を始め、1時間毎に階を昇って勉強を続けることにしていたのである。7時間も勉強するともう夜の11時を過ぎるが、丁度9階まで達するのであった。しかしあと1階、つまり10階が残っている。9階から10階に昇り切るか否は、まさに自分との闘いである。10階に達すれば8時間勉強したことになる。そんな時には、もう誰も残って

いない図書館の10階で一人達成感に浸ってニンマリとした。そして大学院生寮の部屋に戻ると自分に御褒美として冷たい缶ビールを飲んだものだ。

私の図書館利用法はこのようなささやかなものだが、同じく図書館を利用するにしても歴史上の偉人のそれはさすがだ、と思うものがある。それはかのカール・マルクスのことである。マルクスは英国亡命中の貧困生活の中であの『資本論』を書き上げたのだが、およそ30年の間、大英図書館に通い詰め午前9時から午後7時までを特定の座席に座って研究と執筆に没頭したというのである。私は約30年ほど前に大英図書館を訪れた時にマルクスが常用していたというその席を実見したことがある。マルクスが大英図書館に通い詰めていた当時、この席に座ろうとする人がいると係り員が近寄ってきて、「ここを毎日利用する人がいるので、この席にはお座りいただけません」と言ったという逸話もある位なのである。さすがにマルクスほどになると研究・執筆に集中していて、1時間毎に席を変えるなどという工夫は必要なかったのであろう。ちなみに、大英図書館も円型ドーム型をした素晴らしい施設であった。AIUの学生諸君もキャンパス内で素晴らしい図書館が利用できる特権を十分に享受して欲しい。

(お断り)

文中、インディアナ大学図書館での私の勉強に関する描写は東京理科大学同窓会誌『理窓』(2013年)から依頼を受けて寄稿したエッセイ「理科大生諸君！自己流勉強法を開発せよ」と重複する部分があります。



鈴木 典比古